

三角パートナーシップ・プログラム (TPP)

ファクトシート

概要

国連は、2014年に開催された第1回 PKO サミットの成果を受け、平和維持活動 (PKO) 要員への訓練を通じ、PKO をより効果的に行うことを目指し、2015年に東アフリカで三角パートナーシップ・プロジェクトを開始した。①PKO 要員派遣国、②支援国、③国連の三者が共同で取り組む、国連の PKO 能力構築事業である同プロジェクトは、その後、事業内容の充実、及び、実施対象の拡大に伴い、「三角パートナーシップ・プログラム (TPP)」に発展した。現在、TPP では、工兵 (施設)、医療、情報通信 (C4ISR[※]) の三つの分野での PKO 要員に対する訓練プロジェクトのほか、PKO ミッションでの医療環境改善に対応するための遠隔医療プロジェクトを実施中である。



※ C4ISR: 指揮・統制・通信・コンピューター (C4)・情報・監視・偵察 (ISR)

※ C4ISR: 指揮・統制・通信・コンピューター (C4)・情報・監視・偵察 (ISR)

目的

TPP は、訓練や PKO の活動支援を通じ、工兵 (施設)・医療・C4ISR 分野に関する PKO 要員の能力を強化することを目的としている。訓練を受けた PKO 要員が実際にミッションに派遣されることで、質が高く効果的な PKO を実施することができる。また、遠隔医療システムを PKO ミッションに導入する活動支援は、PKO の医療提供環境を向上させている。こうして、TPP は「PKO のための行動 (A4P)」や「A4P プラス」に寄与している。

訓練の特徴

- **PKO 部隊の早期展開:** PKO ミッションへの部隊の早期展開を支援するため、十分な訓練を受け能力を備えた要員を育成・確保。PKO 要員派遣国の PKO 即応能力登録制度 (PCRS) への登録レベルの引き上げにも貢献。
- **多様なニーズに応える柔軟性:** アフリカ・東南アジア及び周辺地域における対面式訓練のほか、Web 会議ツールを活用したリモート訓練も実施。また、現地語、英語または仏語で訓練を実施することにより、訓練生の教育訓練効果を向上。多くの国から教官・訓練生が参加することで、参加者間で交流し、相互に学び交流を深める環境を醸成。
- **優秀な教官:** 支援国等から経験豊富で専門性の高い教官を招聘し、PKO 要員派遣国自国のみでは実施が困難な質の高い訓練を実現。訓練生は単なる技術や知識だけでなく、様々なノウハウの獲得が可能。
- **最新技術の習得:** 支援国からの財政支援等により、PKO 活動で使用する重機、標準的な医療機器や訓練資材、最新の情報通信機材等、必要な装備品を整え、実践的な訓練を提供。
- **PKO 要員派遣国自らの訓練実施能力を強化:** PKO 要員派遣国が自ら必要な訓練を実施できるよう、教官養成 (TOT) コースを提供し、各国国内及び地域における教育訓練の中核となる教官の育成に寄与。
- **PKO の課題解決に直結:** 支援国の協力の下、多彩な訓練を提供。
 - **工兵 (施設) 分野:** 道路等のインフラ整備が課題。対面式訓練である重機 (HEE) 操作コース (初級、中級、TOT)、HEE 整備コース、水平工兵作業コース、施設工程管理 (EPM) コースが基本的な柱。リモート訓練である UN 環境マネジメントコース、宿营地整備インフラ整備 (PSI) コース、作業工程管理 (CPM) コースも提供。
 - **医療分野:** 迅速な医療の提供が課題。医療管理・労働安全衛生部門 (DHMOSH) と連携し、対面式の野外衛生救護補助員コース (FMAC) 及び対面式・リモートによる FMAC の TOT を提供。
 - **C4ISR 分野:** PKO 部隊の指揮命令のための情報伝達の円滑化が課題。国連の軍・警察関係者に、標準化されかつミッションに特化された C4ISR 及び宿营地警備技術関連の訓練を提供。

活動支援の特徴

- **遠隔医療システムの導入:** 遠隔医療システムを PKO ミッションに導入し、ミッション内の各種医療施設をネットワーク化 (中央アフリカ共和国 (MINUSCA)、マリ (MINUSMA)、コンゴ民主共和国 (MONUSCO)、南スーダン (UNMISS)、ゴラン高原 (UNDOF)、ソマリア (UNSOS)、リビア (UNSMIL) 及びアビエイ (UNISFA))、また一部のミッションと加盟国の病院間のシステム構築。
- **システム運用の支援:** 遠隔医療システムの導入に伴い、システムの保守や使用に必要な教育訓練を実施し、システムの効果的な運用を実現。



プログラムの効果

PKO 要員派遣国(TCC)



自国単独では実施が困難な専門性の高い訓練を受けることができ、任務遂行に必要な高い能力を保持した要員及び部隊の派遣が可能。また、教官養成コースを修了した要員を中核として、自国で最新のカリキュラム、教材を活用した訓練の実施が可能。

支援国



TPP の各種訓練等への専門家や教官の派遣、教育訓練施設の提供、財政支援等を通じて、任務遂行、PKO 活動での安全性確保、PKO 活動の質的向上等、PKO ミッションへの貢献が可能。また、PKO 要員派遣国の要員及び部隊の育成に協力することで、PKO 要員派遣国とパートナーシップ醸成の機会を獲得。

国連



工兵(施設)・医療・C4ISR 分野において、質の高い要員及び部隊の確保が可能。「A4P」や「A4P プラス」に寄与。

分野横断的効果



- 工兵(施設)・医療・C4ISR 分野の訓練を標準化。
- 複雑な PKO ミッション環境下での効率的な部隊展開を支援。
- 現在実施中の分野に限定されず、PKO が抱える諸課題の解決にも応用できる可能性。
- 国連の標準的な運用要求に沿って PKO 要員のパフォーマンスを向上。

PKO 要員の安全



- 遠隔地における適切かつタイムリーなケアの提供で、患者後送の必要性を低減。
- PKO ミッション内での医療へのアクセスを改善。医療施設間でより多くの専門家が協議できる仕組みを確立。
- 専門医のいない場所での医療支援が可能。

訓練・活動支援の実績

工兵(施設)分野の訓練

- アフリカ、アジア・太平洋地域の PKO 要員派遣国から 801 人の工兵要員が対面式訓練またはリモート訓練に参加。
- 日本とオーストラリアが財政支援を実施。
- 日本、スイス、ブラジル、モロッコが、支援国として教官を派遣(日本の教官団は、陸上自衛隊及び内閣府国際平和協力本部事務局から派遣)。
- ケニア、モロッコ、ウガンダ、ルワンダ、ベトナム、インドネシア、ブラジルが、訓練施設や装備品を提供し、訓練に必要な業務を支援。アフリカの PKO 要員派遣国4か国(ウガンダ、ガーナ、ケニア、ルワンダ)は、様々な重機操作コースを支える補助教官も派遣。
- 訓練は英語及び仏語で提供。
- 現在、6つの対面式コース(重機(HEE)操作(初級、中級、教官養成(TOT))、HEE 整備、水平工兵作業、施設工程管理(EPM))及び3つのリモートコース(UN 環境マネジメント、宿营地警備インフラ整備(PSI)、作業工程管理(CPM))を提供。
- 修了生は既に MINUSCA、MINUSMA、MONUSCO、レバノン(UNIFIL)、UNISFA、UNMISS 及びソマリア(AMISOM)へ派遣され活躍。





医療分野の訓練

- 2019年10月、初めての野外衛生救護補助員コース(FMAC)を、国連、日本(陸上自衛隊)、ドイツ、ベルギーから教官の派遣を受けてウガンダの国連エンテベ地域支援センターで試行的に実施し、MONUSCOとUNMISSでPKO活動を行う29人のPKO要員が参加。2022年6月にウガンダのエンテベで再び試行的に実施され、MONUSCO、UNISFA、UNMISSでPKO活動を行う21人のPKO要員が、国連のヘッドトレーナー及び7人のヘッドトレーナー候補生と共に参加。
- 2022年4月、FMAC教官養成コース(TOT)の一環でバーチャル・ワークショップを開催し、22人が参加。参加者から選抜された7人が、二度目のFMAC試行訓練である6月の対面式FMACTOTにヘッドトレーナー候補生として参加し、訓練を実施した。訓練後、7人全員がヘッドトレーナーに認定された。
- FMACは、日本、イスラエル、インド、韓国から財政支援を受けている。



情報通信(C4ISR)分野の訓練(国連情報通信学校(UNCAP))

- 2015年以来、126カ国、約13,480人(うち女性15%を含む)の軍及び警察のPKO要員が、国連エンテベ地域支援センター等における対面式訓練、インミッション訓練もしくはオンラインコースに参加。
- 9回の女性アウトリーチコース(WOC)は英語または仏語で実施され、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカから67カ国231人の女性将校が参加し、29人(13%)の修了生がPKOに派遣。
- MINUSCA、MINUSMA、MONUSCO、UNSOSに大きく裨益。
- 日本、インド、カナダ、デンマークが財政支援で、ウガンダ、ドイツ、フランス、米国、NATO情報通信システム学校が、教官の派遣や装備品の提供、技術サポートなどで協力。
- 2021年、マイクロUAS(ドローン)コースを開始し、それ以降リモートパイロットコースを5回実施。2022年からマイクロUASコースTOTを開始。
- 2022年第一四半期、WOCとマイクロUASコースの統合訓練を立ち上げ。
- モバイル技術トレーニング(MTT)チームが、MINUSCAとMONUSCOでマイクロUAS訓練を実施。
- 2022年国連情報通信技術コースTOTを再開。



遠隔医療プロジェクト

- 2021年3月、PKOデジタル技術を活用してミッションにおける医療へのアクセスを改善する目的で開始。
- MINUSCA、MINUSMA、MONUSCO、UNMISSの4つのミッションを対象に試行的プロジェクト第1弾を開始。
- 2022年から2つのプロジェクトが追加。第2弾としてUNDOF、UNISFA、UNSMIL、UNSOSへの遠隔医療プロジェクトの拡大を行い、さらに一部施設とミッション外の加盟国の病院との連携を企図。第3弾として、遠隔地から診察や手術を支援できる野外展開可能な遠隔医療モジュールを導入。
- 日本とオーストラリアが財政支援を実施。イスラエル、韓国、国連平和発展信託基金(UNPDF)(中国)も別途財政支援を実施。





現在提供中の訓練



重機操作

道路の補修、宿営地の敷地造成等に必要な重機の操作方法、工事の基本的な要領を英語及び仏語で訓練



教官養成

自国での訓練を可能にするために、教育や訓練の実施に必要な知識や実技の要領について訓練



重機整備・修理

重機の故障を予防するための整備方法や故障時の修理方法を訓練



工程管理

資材や作業等を適切に管理して計画的に実施するための工程管理を教育



環境マネジメント

PKO ミッションにおける環境マネジメントの知識を習得



宿営地警備インフラ整備

過酷なミッション環境下における宿営地での警備や防護に関するインフラについて、主要概念、設計、手順、資材、装備等について教育



野外医療

受傷後適切な医療機関に搬送されるまでの間に必要な野外医療に関する知識や技術を訓練



情報通信

PKO で使用している情報通信機材や宿営地警備システムを、ウガンダ・エンテベにある国連情報通信学校 (UNCAP) に常設し、英語及び仏語で訓練

マイクロ UAS や状況認識 (Situational Awareness) など、C4ISR 技術に関する「シナリオベースの」教育訓練も新たに実施



作業ニーズ調査と設計

現場の状況に応じた施設作業の計画立案を可能にする現地調査や宿営地設計の方法を教育

三角パートナーシップの将来

- 三角パートナーシップ・プログラム (TPP) は、PKO を強化する革新的なアプローチとして、150 カ国以上の国連加盟国から賛同を得ている。
- TPP を持続可能な事業とするために、従来の対面式訓練に加え、オンラインを活用したリモート訓練を新たに導入した。2022 年は更なる飛躍を目指し、多くの訓練を計画中。
- 国連は、TPP に対する教官の派遣、装備品の提供、財政支援等、あらゆる面での加盟国からの支援を歓迎する。

三角パートナーシップチーム

三角パートナーシップチームは、本部、地域事務所、フィールドを含む国連事務局の全てのオペレーション (活動) の支援を担当する国連オペレーション支援局 (DOS) の特別活動部 (DSA) に所属している。チームについてのより詳細な紹介 (英文) は、下記のウェブサイトまで。

<https://operationalsupport.un.org/en/triangular-partnership-programme-tpp>